

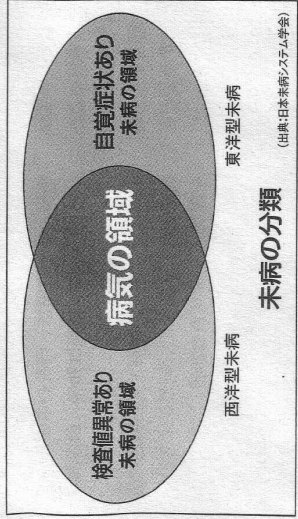
特集 “未病” 対応

特 定健診制度のスタートに象徴されるように、国を挙げて予防への取り組みが進んでいる。その予防の前段階として注目されているのが「未病」の状態。冷えや疲労感、ストレスなどさまざまな不定愁訴の原因が未病状態にあるとされていることから、未病をターゲットにしたマーケティングが加速している。TVや新聞でもよく見かけるようになった「未病」。市場動向をレポートする。

ライフスタイル変化反映し、未病人口増加

「未病」とは、中医学で古くから言われている考え方で、病気の具体的な症状が出てくる前段階、つまり「健康と病気の間の状態」を言う。日本未病システム学会によると「自覚症状はないが検査結果に異常がある状態」と、「自覚症状はあるが検査結果に異常がない状態」を合わせて「未病」としている。一方、「病気」とは「自覚症状もあるが検査でも異常がある状態」としている。同学会では、「東洋型未病」と「西洋型未病」にわけることができるとしている(図参照)。

ライフスタイルの変化に伴う食生活の乱れ、睡眠不足をはじめ、運動不足、ス



未病の種類

“未病”は予防にとって重要なキーワード

トレスの増加、環境汚染——など内外因子によってがんや糖尿病などの生活習慣病と予備軍、その他、高血圧、高脂血症、動脈硬化——など、様々な疾病が増加している。また高齢化社会を背景に、今後の日本では加齢による健康不安はまぬがれない。その代表である肉体疲労、不定愁訴等の慢性症状有症者は増加、さらに冷え性、発汗、不眠、耳鳴り、頭痛、難聴、腰痛、肩こり、便秘、頻尿等といったいわゆる更年期疾患に悩む人々も増加傾向にある。

未病を発見・改善する機器が好調

こうした中、市場では、これら未病に対応する各種機器類が数多く流通、一大マーケットを形成している。未病対応の機器は、未病を「発見」するものと、未病の状態を「改善」するものに大別される。

未病の発見をする機器としては、自己の体組成や健康状態を計測するヘルスチェック機器が代表的なもの。最近では、ヘルスチェック機器の技術レベルも向上しており、指先の毛細血管の形状や血流の状態までを観察できる装置や、内臓脂肪の厚さまでを計測できる装置など、より詳細に自分の身体情報を把握できる機器類も登場している。国民のセルフメディケーション意識の高まりを受け、ヘルスチェック機器の売上はここ数年、好調に推移している。

一方、未病の改善機器としては、体を温めることで血行を促進し、免疫力や基礎代謝を向上させる温熱・

温浴関連商材、血中の酸素量を増加させ、温熱同様の効果をもたらす酸素関連商材、微弱な放射線のエネルギーにより細胞を活性化するホルミシンス商材、ストレッチ軽減などに有効な快眠サポート商材——など。共通して言えるのは、自己の免疫力や自然治癒力を高め、疾病に負けない体作りをサポートする点だ。

手帳で低価格の商品が多く見られるヘルスチェック機器類は好調な反面、家庭用医療機器、健康寝具などを含む未病改善商材の分野は、訪販など無店舗ルートで流通する高額商品も多く、世界同時不況やここ数年の特商法、割取法による規制強化の影響で販路活動が困難な状況にある。とはいえ、今後も国民のセルフメディケーションの意識が更に高まる状況から「長い目でみれば着実に伸びていく要素は十分にある」と業界関係者はみている。

未病ケアが「統合医療」の主流に

他方、医療現場でも近年、「本当に治る医療、質の高い医療が重要」との共通した意見が聞かれ、従来の西洋医療だけでは不完全な部分を補完するたゆめに、東洋医療や伝承医療など含む代替医療を組み合わせた「統合医療」に注目が高まっている。統合医療の現場では実際、各種疾病の早期発見のため、各種ヘルスチェック機器類はもちろん、がん治療における免疫療法の一環として各種健康食品や温熱治療器、放射線ホルミシンス関連商材などが導入されるケ



ースが増えている。

予防が重要視される昨今は特に、その前段階にある「未病」およびそのケアへの医療従事者の関心は高い。なかでも今後増える予想される東洋型未病の場合、未病ケアが治療の主役となり、様々な未病対応機器が活躍することが予想される。

3月の「健康博覧会2009」および「統合医療展2009」(主催: CNPジャパン(株))では、これら未病の発見や改善に有効な機器類が集結する。同展では、機器メーカーと販売業者や医療機関、治療院などによる活発な商談が行われる。未病対応機器類は今後、一般ユーザーはもちろん、プロユーザーにも広がりを見せ、さらなるマーケット拡大が期待できる。